

桃生中の防災新聞女子評

石巻 震災の被害と教訓 児童に分かりやすい紙面

宮城県石巻市桃生中の2・3年生が県内の東日本大震災の遺構を訪れ、学んだことをまとめた防災新聞が、地元小生や住民から好評だ。3年生は震災後生まれの小学生に被害と教訓を伝えるため、12日も新聞の体裁にした。防災新聞は来年1月26日に同市蛇田公民館で開かれる「石巻防災・震災伝承のつどい」で展示される。

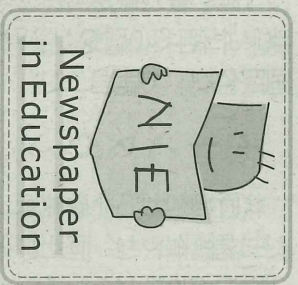
3年生50人は10月上旬、大震災遺構・伝承館の気仙石巻市震災遺構大川小、2沼回洋高日校舎を訪問。語

年生4人は気仙沼市東日本1部の話を聞くなどして、

石巻市震災遺構大川小、2 沼田洋高旧校舎を訪問。語り部の話を聞くなどして、



桃生中の3年生が制作した防災・減災ごども新聞



津波の脅威や被災状況、避難行動を取材した。

3年生は、7班に分かれ、A3判表裏の「防災・

減災（じむ）も新聞を作った。新聞制作は昨年に続き今回。今回は小学生が読んで

お分かいやすし紙面作のを
纏集方針に据えた。易し
言葉を選んだし、漢字には
ルビを振つたのだけが、

興味を持ってもらえよう
に、質問形式の記事も掲載
した。

平間翠さん(15)は「震災

實情だを「まへて」のタートルで記事を書いた。大川小の裏山から昇下つた景色や津波が襲つてゐる前に校庭に待機した児童の様子を伝へて、当時の状況が分かるものがたくさんあった。

残し続けるのは、後世の人

カをけぬだぬに必數だんカ
かっだくひひひだ。

易しい言葉、ルビ、質問形式の記事も



生徒たちは口々に「地域」に行われた防災訓練に参加。小学生、住民に計200部を配付し、記事に込めた想をも伝えた。平岡さんは「小学生が一生懸命読んで、話を聞いてくれたのはうれしかった。田舎の命を守るために防災文化に行動して欲しい」と話す。

2年生も7班に分かれ
A4判表裏の「防災・減災

新聞「外」を制作した。
藤原あかし(13)は、は
承館で上映されてる階上

中卒業式の答辞を紹介し、
へんが苦しみにあつても
真つすぐ進んでいへといつ
答辞は、世界中の人々の心

が動かしだすと記した。

此の如く、
 此の如く、

のきやうにたいのふくをけりしとて、新聞をそゝに読もうと思ふ」と話した。

米 價

来月伝承のつどいで展示

豊玉のむかし、紙画の
人ひてのひもきだ。
弘保十佳子校娘は「生
が遺構秘覧後一廻画で感
取った事柄を新聞にまじ
ぬいとかきだのぞ、普
かゝ新聞に親してゐた
ひだと思ふ」と語つた。